



2023年度
第1号

体育市民連帯 ニュースレター

1
歩きながら運動し
スポーツポイントを通じて
生きがいのある
幸せな健康都市づくり



2
政府、国民に
ウォーキングの必要性を
知らせなければならない



3
国内スポーツ産業の
売上高、1年間で
11兆ウォン増加



4
みんなのスポーツ…
2023年体育分野予算
1兆6398億ウォン



5
WBC、女子ワールドカップ
アジア大会…
今年もスポーツは続く

6
朴セリ
世界女性スポーツの
発展に貢献した
36人に選ばれた

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



01 体育市民連帶コラム

歩きながら運動し、スポーツポイントを通じて 生きがいのある幸せな健康都市づくり

ジユ・ソンテク体育市民連帶執行委員/韓国スポーツ未来戦略研究所所長

ウォーキングは誰でもできる最も簡単な運動で、他の運動に比べて負傷の危険が少なく、多様な運動効果を得ることができる。特に体重の調節、関節強化および心臓の健康増進、疾病予防、メンタル強化などに効果があると知られている。統計庁「2022 高齢者統計」の調査結果によると、2020 年 65 歳以上の高齢者の運動別実践率はウォーキング(42.3%)、有酸素身体活動(33.2%)、筋力運動(22.5%)の順で、全般的に前年より増加した。

スポーツ参加は国民の健康と医療費に因果関係があるという事実は数多くの研究結果で公表されているが、韓国のスポーツ参加率(60.8%、週 1 回、2021 年基準)は先進国(フランス:規則的な運動「男性、71%、女性、60%」、2020 年基準)に比べて著しく低い水準である。

ユネスコ(UNESCO)の「スポーツに 1 ドルを投資すれば医療費 3 ドル削減効果」が得られるという研究結果のように、スポーツ参加は国民健康増進と国家財政に寄与すると報告されている。韓国スポーツ政策科学院(KISS)でも地道な運動と体力管理が国民医療費節減効果があると発表した。しかし、運動参加が医療費削減につながるという事実が国民の肌には響かない。また、運動と身体活動、スポーツ参加の個人、社会的肯定の効果にもかかわらず、これに対する保障制度と支援は少ないのが現実だ。

したがって、多様なレベルと分野の個人スポーツ活動参加履歴と体力認証を通じた強固な体力が保健医療サービス体系と連動する場合、社会経済的効果はもちろん個人の健康管理への動機付けとして作用するだろう。これをオンライン情報化を通じてスポーツ参加履歴を健康、福祉、保健、医療情報と統合的に連動させ、健康福祉政策を体感できるインセンティブ特典を付与する制度の導入が緊要だと思う。例えば、2023 年度保健福祉部の予算は、政府案(108 兆 9918 億ウォン)より 1911 億ウォン増加した 109 兆 1830 億ウォンと確定した。保健医療分野の予算は 16 兆 9568 億ウォンだ。前年比 1,375 億ウォン増えた。超高齢社会への進入を目前にしている現在、今後医療費はさらに増えるしかない状況だ。医療費削減に対する悩みは、政府でも解決しなければならない課題だろう。これに対する議論は、第 20 代大統領選挙でも各候補がスポーツ分野で公約として扱い、その内容と方法は候補間の差はあったが類似していると思う。

特に韓国スポーツ政策科学院(KISS)が発表した 1 人当りの運動効果費用(40 万ウォン)を 2022 年(基準)度大韓民国の人口 51,632,473 人を根拠に単純計算をしても約 20 兆 6502 億ウォンの予算節減効果が推定できる。運動で得たポイントは企業と連携して全国で使えるように企業と地域住民、そして地域経済活性化に役立つ。スポーツポイント事業を基に国民の健康管理と予防を通じて慢性疾患の有病率を下げることができ、超高齢社会に備えて高齢者の身体機能維持のための体力管理と共に医療費節減に寄与できるだろう。特にソウル市をはじめ、一部の自治体でスポーツポイント事業を推進している。スポーツポイントは政府と地方自治体レベルで具体的な事業内容に対するモデル開発なしに政策を推進して発生する社会的な費用

はそのまま国民に転嫁される可能性があるため、各自治体で推進する事業に対して再検討が必要だと見る。

政府レベルでスポーツポイントの導入を通じて活力ある都市、健康な都市、幸せな都市に創造していくためには、地域住民を生活体育に誘導することは、政府と自治体の立場で最高の福祉政策だろう。

したがって、政府をはじめ地方自治体と国民体育振興公団、そして体育会ではスポーツポイントと関連した予算準備および政策的配慮が必要だと考えられる。スポーツポイントに対する主要履行方法は、関係省庁と利害関係者協議体を構成して事業モデルを開発し、これと関連した法制定のための政府レベルの政策履行に対する議論が具体化することを期待する。

2022. 12. 27

02 アジア経済 2023. 01. 02 オ・ハンジン博士の一針 政府、国民にウォーキングの必要性を知らせなければならない



運動を始める年齢にはマジノ線（訳注：ナチスドイツを防ぐためにフランスが築いた防衛ライン）がない。今40代なら、運動を最も怠る世代であり、運動がどれほど重要かをまだ体感していない世代だ。80歳で、これから余生を最後まで自ら歩き回り、一人でトイレの用をしたり、お風呂に入りたいなら、今からでも歩き始めなければならない。

オ・ハンジン博士は「年を取って老衰して療養病院に行き、身の回りの処理さえ誰かの世話を受け始めれば人間としての尊厳性が大きく失われる」とし「その期間を長く経験しないためには今すぐ運動を始め、運動法を学び、その運動が自分を助けてくれるということを知らなければならない」と話した。

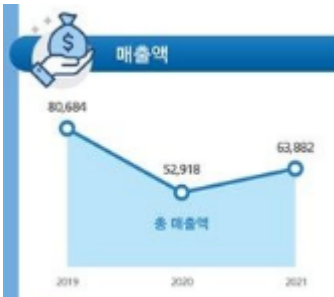
彼は政府が国民にウォーキングの必要性を知らせ続け、教えるべきだと注文した。皆が「運動をしなければならない」とだけ言うが、その前に「自分が痛くならないためには運動をしなければならない」、「運動する人生はしない場合とは違う」ということを知らせなければならないということだ。また、正しい姿勢で歩き方を教えて歩かせ、どれだけ頻繁に、どのくらいの距離を歩かなければならないのかをきちんと説明し、地道に実践できるように、ウォーキングコースや人々が簡単に楽しく利用できる道を作るのが政府や自治体の仕事だと強調した。

オ博士は「国民が健康に暮らせるようにするのが、政府が莫大な医療費を負担して支出するよりましだ」とし「体が健康であれば心と精神がより健康になり、周辺により関心を持つことができ、その分世の中がより健康になる効果がある」と述べた。

出典：<https://www.asiae.co.kr/article/2022122919094823153>

03 ニュース 1 2022. 12. 30

国内スポーツ産業の売上高、1年間で11兆ウォン増加



文化体育観光部が2021年12月基準で国内スポーツ産業の売上額を調査した結果、前年対比約11兆ウォン増加した。

文体部は30日、2021年12月基準で国内でスポーツ産業を営む事業体を対象に行ったスポーツ産業調査の主要結果を発表した。

今回の調査は11万6095社のうち1万4000社の標本を対象に2022年9月から11月の間に訪問、ファックス、電子メール調査を並行して実施した。

調査の結果、△2021年基準の事業体数は11万6095社で、前年9万7668社対比18.9%増加△売上高は63兆9000億ウォンで、前年52兆9000億ウォン対比20.1%増加△従事者数は40万6000人で、前年37万6000人対比7.9%増加したことが分かった。

業種別ではスポーツ施設業、スポーツ用品業、サービス業の事業体数、売上高、従事者数が全般的に増えた。

特に総合スポーツ施設運営業(1兆ウォン・114%増)、体力鍛錬施設運営業(1兆8630億ウォン・146%増)、ゴルフ練習場運営業(2兆7520億ウォン・27.8%増)、サッカー教室などスポーツ教育機関(1兆3000億ウォン・80%増)の売上高が大幅に増加した。

また、ゴルフ場運営業の売上高は3%上がった6兆ウォンが上昇するなど着実な増加傾向を示した。ここにスポーツ用品業関連業種も国民の健康とスポーツサロンに対する関心増加で売上高が上がった。

文体部は「今回の調査結果を土台にスポーツ産業規模の速い回復と革新創出のための支援を強化していく予定」とし「スポーツ成長段階別オーダーメイド型支援を強化しスポーツと情報通信技術(ICT)を結合した革新的な製品・サービスが提供されるよう多角的な支援を惜しまない」と明らかにした。

一方、スポーツ産業調査は「スポーツ産業振興法」第7条および「統計法」第18条に基づく国家承認統計調査であり、スポーツ産業規模と経営実態現況を把握するために2010年から実施している。

出典：<https://www.newsl.kr/articles/4910775>

04 ニュース 2023.01.01

みんなのスポーツ… 2023年体育分野予算1兆6398億ウォン



文化体育観光部の来年の体育分野予算が政府案(1兆6117億ウォン)より281億ウォン増額された1兆6398億ウォンに確定した。

文化体育観光部は28日、国会審議過程で▲スポーツクラブ総合情報システム構築事業(68億ウォン) ▲全国(少年)体育大会海外同胞選手団および高等部出場支援(31億ウォン) ▲2024釜山世界卓球選手権大会支援(42億ウォン)などが反映され、来年度予算が増額されたと発表した。

来年の生活体育分野の予算は計6331億ウォンで編成した。

国民生活体育参加の基盤となる生活体育施設拡充のために▲高齢層の好みの高い高齢者(シニア)親和型国民体育センター建設(6億ウォン) ▲障害者-非障害者が共に利用する社会統合型体育施設(601億ウォン)予算を拡大した。

低所得層の幼・青少年と障害者にスポーツ講座受講料を支援するスポーツ講座利用券(852億ウォン)は1年中中断なくスポーツを楽しめるよう支援期間を10ヶ月から12ヶ月に拡大した。月別支援金額も9万5000ウォンに1万ウォン増額し、恩恵対象も10万5000人に2万人を増やした。

専門体育分野の予算は今年比374億ウォン(9.3%)増額した4393億ウォンを編成した。

国家代表選手の訓練手当ては1日7万ウォンから8万ウォンに引き上げられ、選手村外の訓練宿泊費も4万ウォンから6万ウォンに引き上げられる。専担チーム・トレーナーは雇用期間を11ヶ月から12ヶ月に増やし、4大保険(訳注:政府が直接管理する国民年金、健康保険、雇用保険、労災保険)および退職金を支給することにした。

また▲冬季種目訓練センター運営(31億ウォン) ▲鎮川選手村施設拡充(60億ウォン) ▲太白選手村多目的体育館および泰陵スケート場代替施設建設妥当性研究用役(各3億ウォン)などを編成、国家代表など専門体育選手の訓練環境を大幅に改善し、大韓民国スポーツの国際競争力を強化することにした。

国際スポーツ分野の予算案は、今年より166億ウォン(18.5%)上がった1063億ウォンを編成した。

2024江原冬季青少年オリンピックの大会運営、選手プログラム、大会公式行事などの準備に95億ウォン、2024江原冬季青少年オリンピック大会と連携した多様な文化・教育プログラム運営支援に131億ウォンが投入される。

韓国で初めて誘致・開催する2024世界卓球選手権大会の開催支援(42億ウォン)も推進する。

障害者体育分野の予算案は、今年比62億ウォン(6.9%)増額した963億ウォンを編成した。

文体部は2023年体育分野予算に対して「国政課題『みんなのスポーツ、きめ細かいスポーツ福祉実現』のために生活体育活性化基盤を拡大し、国家代表訓練条件を改善することに重点を置いた」と説明した。

続けて「今後も国民のスポーツ権実現のためにすべての国民が自由に簡単に楽しむスポーツ環境を造成し、スポーツ産業が大韓民国の未来成長を牽引できるよう段階的に支援を拡大する計画」とし「大韓民国スポーツが国際大会で見せる目覚ましい活躍で大韓民国国民が自負心を感じられるよう専門スポーツに対する世界一流水準の支援を惜しまない方針」と伝えた。

出典：https://newsis.com/view/?id=NISX20221228_0002138917&cID=10501&pID=10500

05 ハンギョレ 2023.01.01

WBC、女子ワールドカップ、アジア大会…今年もスポーツは続く



2023年、スポーツはまた別の疾走を始める。世界野球クラシック(WBC)から1年延期された杭州アジア大会まで、スポーツ界は忙しい1年を過ごす。

しかし、2013年3回、2017年4回大会の時はいずれも1ラウンドで脱落した。2020年東京五輪でも4位にとどまり、「井戸の中の蛙」とまで言われた。そのため、3月8日に開幕する世界野球クラシックの成績がさらに重要になった。

KTウィズの李ガンチョル監督率いる代表チームは2月8日、最終エントリー30人を確定し、2月14日から2週間、米アリゾナ州ツーソンのキノスポーツコンプレックスで合宿を行う。続いて3月初めに一時帰国した後、大阪に渡り、3月6~7日に日本プロ野球オリックス・バファローズ、阪神タイガースと相次い

で強化試合を行い、東京ドーム入りする。韓国は日本、オーストラリア、中国、チェコとB組1ラウンド（3月9～13日）を行う。韓日戦は3月10日午後7時に予定されている。

■ 2023 FIFA 女子ワールドカップ(オーストラリア、ニュージーランド・7月20日～8月20日)

コリン・ベル監督率いる女子サッカー代表チームは、昨年開かれたアジアサッカー連盟（AFC）アジアカップで史上初めて準優勝し、3大会連続W杯本大会に進出した。通算4度目の舞台。女子サッカー代表チームは15年カナダ大会で初めてベスト16入りし、03年米国大会、2019年フランス大会ではグループリーグで脱落した。

2023国際サッカー連盟(FIFA)女子ワールドカップは9回大会で、オーストラリアとニュージーランドが共同開催を行い、歴代最多の32カ国が本選で競争する。男子ワールドカップのように4カ国ずつ8組に分かれて1次リーグを行い、各組1、2位が決勝トーナメントに進む。韓国はH組に編成され、コロンビア（7月25日・シドニー）、モロッコ（7月30日・アデレード）、ドイツ（8月3日・ブリスベン）と順に試合する。ドイツを除いてコロンビア、モロッコとは対決してみる価値があるという評価を受けている。女子サッカー代表チームが1次リーグを勝ち抜けば、史上初めて男女同伴16強進出という新しい歴史を作ることになる。今大会では2015年、2019年大会優勝チームの米国が3連覇を狙っている。

■ 2022 杭州アジア大会(中国杭州・9月23日～10月8日)

新型コロナウイルス感染症の拡散で1年延期された杭州アジア大会が9月に開催される。ホームアドバンテージを抱える中国のメダル独占が予想される中、韓国と日本の2位争いが激しくなりそうだ。韓国は2014仁川アジア大会まで5大会連続2位を占めたが、2018ジャカルタ・パレンバン大会では日本に2位の座を明け渡した。今大会は2024年パリオリンピック(2024年7月26日～8月11日)の前哨戦にもなる。2020年東京五輪の時に頭角を現した^{アンサン}安山（アーチェリー）、^{ファンソンウ}黄善宇（水泳）、^{ウサンヒョク}禹相赫（高跳び）、^{ヨ・ソジョン}呂瑞貞（体操）らが、これまでどれだけ成長したか見守る価値がある。卓球のシン・ユビンは手首の負傷で昨年アジア大会出場が不可能だったが、大会が1年延期されたため、再び出場機会をつかんだ。18年大会の時、並んで金メダルを取った野球やサッカーなど球技種目の成績も関心事だ。ただ、KBOリーグはアジア大会中にもシーズンを中断しないことを決め、球団別代表チームの選出範囲によってチーム順位が変動する可能性もある。

出典：https://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/1073927.html

06 聯合ニュース 2023.01.01

朴セリ、世界女性スポーツの発展に貢献した36人に選ばれた



韓国ゴルフの先駆者朴セリ（46）が世界女性スポーツの発展に貢献した象徴的な人物36人に選ばれた。

米経済専門誌「ビジネスインサイダー」は最近、世界女性スポーツの発展に貢献した36人の象徴的人物を選定し発表した。

同メディアは朴セリについて、「世界ゴルフ名誉の殿堂会員で、女子ゴルフ史上最も偉大な選手の一人」とし、「1998年から2002年の間にメジャー4勝を挙げるなど、メジャー大会だけで通算5回優勝した」と説明した。

特に「朴セリはアジア出身で米女子プロゴルフ（LPGA）ツアーで成功した事実上初の選手で、数多くの次世代選手にインスピレーションを与えた」と評価した。

ビジネスインサイダーが選定した 36 人のうち、アジア国籍の選手は朴セリが唯一で、東洋系ではフィギュアスケート選手のミシェル・クワン（米国）と一緒に名を連ねた。

ゴルフ種目では朴セリのほか、ナンシー・ロペス（米国）とゴルフのほか、陸上種目でも頭角を現したベイブ・ディドリックソン・ザハリアス（米国）が選ばれた。

現役選手としては 2022 年 AP 通信「今年的女子選手」に選ばれた水泳種目のケイティ・ラデキと体操のシモン・バイルズ、バスケットボールのキャンディス・パーカー、テニスのビーナス・ウィリアムズ（以上米国）らが 36 人に含まれた。

◇ ビジネスインサイダー選定の世界女性スポーツの発展に貢献した人物 36 名

- ▲ ウィルマ・ルドルフ（アメリカ・陸上）
- ▲ ビリー・ジーン・キング（アメリカ・テニス）
- ▲ リンジー・ボーン（アメリカ・スキー）
- ▲ アリ・レイズマン（アメリカ・体操）
- ▲ アレックス・モーガン（アメリカ・サッカー）
- ▲ ナスティア・リュウキン（アメリカ・体操）
- ▲ セリーナ・ウィリアムズ（アメリカ・テニス）
- ▲ デニカ・パトリック（アメリカ・モータースポーツ）
- ▲ ロンダ・ロウシー（アメリカ・異種格闘家）
- ▲ マリア・シャラポワ（ロシア・テニス）
- ▲ ケイティ・ラデキ（アメリカ・水泳）
- ▲ シモン・バイルズ（アメリカ・体操）
- ▲ ミッシー・フランクリン（アメリカ・水泳）
- ▲ メーガン・ラピノ（アメリカ・サッカー）
- ▲ シュテフィグラフ（ドイツ・テニス）
- ▲ ミステイ・メイケリーウォルシュ・ジェニングス（アメリカ・ビーチバレーボール）
- ▲ ダイアナ・トーラッシュ（アメリカ・バスケットボール）
- ▲ ラリサ・ラティニーナ（ロシア・体操）
- ▲ ジャッキー・ジョイナー・カッシー（アメリカ・陸上）
- ▲ キャンディス・パーカー（アメリカ・バスケットボール）
- ▲ ナディア・コマネチ（ルーマニア・体操）
- ▲ マルチナ・ナブラチロワ（アメリカ・テニス）
- ▲ マルタ（ブラジル・サッカー）
- ▲ 朴セリ（韓国・ゴルフ）
- ▲ ナンシー・リバーマン（アメリカ・バスケットボール）
- ▲ ミア・ハム（アメリカ・サッカー）
- ▲ アビー・ウォームバック（アメリカ・サッカー）
- ▲ メリル・レトン（アメリカ・体操）

- ▲ ミシェル・クワン (米国・氷上)
- ▲ ヴィーナス・ウィリアムズ (アメリカ・テニス)
- ▲ マヤ・ムーア (アメリカ・バスケットボール)
- ▲ ベーブ・ディドリクソン・ザハリアス (アメリカ・ゴルフ-陸上)
- ▲ シェリル・スウプス(アメリカ・バスケットボール)
- ▲ チェリル・ミラー(アメリカ・バスケットボール)
- ▲ ナンシー・ロペス (米国・ゴルフ)
- ▲ リサ・レスリー (アメリカ・バスケットボール)

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20230101010400007?input=1195m>

07 週刊スポーツニュース

「ペレ以前のサッカーは… 単なるスポーツに過ぎなかった」

<https://view.asiae.co.kr/article/2022123007545917908>

チョ・ギュソンはヨーロッパ、イ・ジョンフはアメリカ？ 2023 年を輝かせるスポーツスターたち

<https://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=6325567&ref=A>

「冬の異色スポーツ」堤川義林池の裸マラソン 15 日開催

<https://www.newsl.kr/articles/4912310>

昨年見つけられなかったスポーツトの的中賞金・払戻金を受け取ってください。

<https://mksports.co.kr/view/2023/2970>

2018 平昌記念財団、「2022 スホラン・バンダビススポーツキャンプ」開催

<http://enews.imbc.com/News/RetrieveNewsInfo/369511>

大邱国際スポーツ大会の国費 5 億ウォン確保

<https://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=6325477&ref=A>

スポーツマーケティング、「ブランド選手団」が主流

<http://www.ktnews.com/news/articleView.html?idxno=126672>

癸卯の年は野球、女子サッカー、チームコリアの番…2023 年もスポーツは熱い

https://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20230101500056&wlog_tag3=naver

兎年スポーツスターに注目… リュ・ヒョンジン、アン・ウジン、キム・ミンソン

https://www.chosun.com/sports/sports_general/2023/01/01/VWQ6X5JM5ZHNJKE7VIW2JW4UDQ/

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援をお願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>